

BRT^(※1)導入へ 町も積極的な対応を



石内 國雄



町長

県と連携し実現の 働きかけ続ける



東西をつなぐバス路線の実現を

質問 町の立地条件・交通の利便性をさらに向上させる、東毛広域幹線道路にバス高速輸送システム（BRT）を導入するための調査費が、平成30年度の群馬県予算に計上された。町の考え方と対応は。

答弁 町長 高崎駅を起点に道毛地区まで運行するバス路線の実現に向け、町はこの恩恵を最大限に生かすべく、県と連携し、沿線自治体やバス事業者に積極的に働きかけを続けていきたい。

質問 BRTのイメージと取り組みは。

答弁 町長 BRTが導入されれば、通勤通学や停留所へのアクセスなど、町の交通システムの変革になると思う。今使っている交通手段の再構築を検討していきたい。

設備投資支援の導入 促進計画を

質問 中小企業の設備投資を支援する「生産性向上特別措置法」は、市町村が国の指針を基に「導入促進基本計画」を策定し、事業者は市町村の認定を受け、税が優遇される制度である。町の策定状況はどうか。

答弁 町長 2月の説明会では、設備投資支援の必要性や導入促進基本計画のイメージの説明があった。関係機関との協議を重ねながら計画策定に向けた調査研究を進めていく。

徘徊対策にGPS活用を

質問 高齢者の見守りに、小型のGPSを活用した、徘徊の位置情報把握を導入すべきと考えるが。

答弁 町長 本人やその家族になるべく負担がかからず、簡単に利用できるシステムの構築に向け、他市町村の動向等、さまざまな情報を収集しながら検討していきたい。

学期制変更の説明等は

質問 3学期制移行について保護者への説明と教職員の負担軽減はどうか。

答弁 教育長 保護者にはPTA総会や学年懇談会等で、丁寧に説明していく。教職員については、県の多忙化解消に向けた協議会の提言をもとに、玉村町として具体化したい。

※1 BRT（バス・レジット・トランジット）とは、バス専用レーンや連節バスなどを組み合わせて運行する新交通システム。定時・大量輸送等が可能となる。

国際教育特区 認可による成果は



新井 賢次



教育長

英語教育が より充実した

質問 国際教育特区認可後、2年半余が経過した。新しい試みと成果をどう評価するか。

答弁 教育長 認定を機に、すべての小学校にALT（英語指導助手）を常駐配置した。さらに文部科学省の申請を経て教育課程特例校となり、外国語活動を小学校1年生から導入した。今後も、玉村町版外国語活動カリキュラムに基づいて、幼稚園、小学校、中学校の12年間を見通し、英語教育を一層充実させたい。

質問 英語についての町の取り組みは、他市町村と比較して優位性があり、「子育てするなら玉村町」のセールスポイントになる。国際教育のまちとして積極的にPRすべきではないか。

答弁 経営企画課長 平成30年度から町の情報発信を一元化して、充実させていく。

サイクリングのまち プロジェクトの推進は

質問 総合計画に「利根川自転車道などのサイクリングロード、歴史的な街並みや街道を活かし、自転車による街めぐりが楽しめる町として、来訪者の増加を目指す」とある。どこまで進んでいるか。

答弁 町長 町道の一部を自転車利用しやすいように整備し、ネットワーキ化を図っている。さらに、視線誘導標や路面標示によって歩行者や自転車の交通安全を確保している。サイクルアンドバスライド^(※1)の実施については、国道354号に、バス路線が運行されるタイングに合わせて、道の駅玉村宿の自転車置き場を活用してうまく機能するようにしたい。

利根川・烏川のサイクリングロードは、町にとっても交流人口増加の観点から重要な社会資源と捉えている。道の駅玉村宿



軽快にサイクリストが走っていく

や歴史的資産などへの来訪者が増加するよう、関係機関と連携して対応したい。

答弁 経営企画課長 残念ながらサイクリストを町に呼び込む有効な手段はとれていない。厳しいが手を打って、PRに力を入れたい。

こんな質問もしています
・「食によるまちづくり」の進捗状況について

※1 サイクルアンドバスライドとは、自宅等から最寄りのバス停まで自転車で行き、自転車をバス付近に置いてバスに乗り換えて目的地に向かう方法